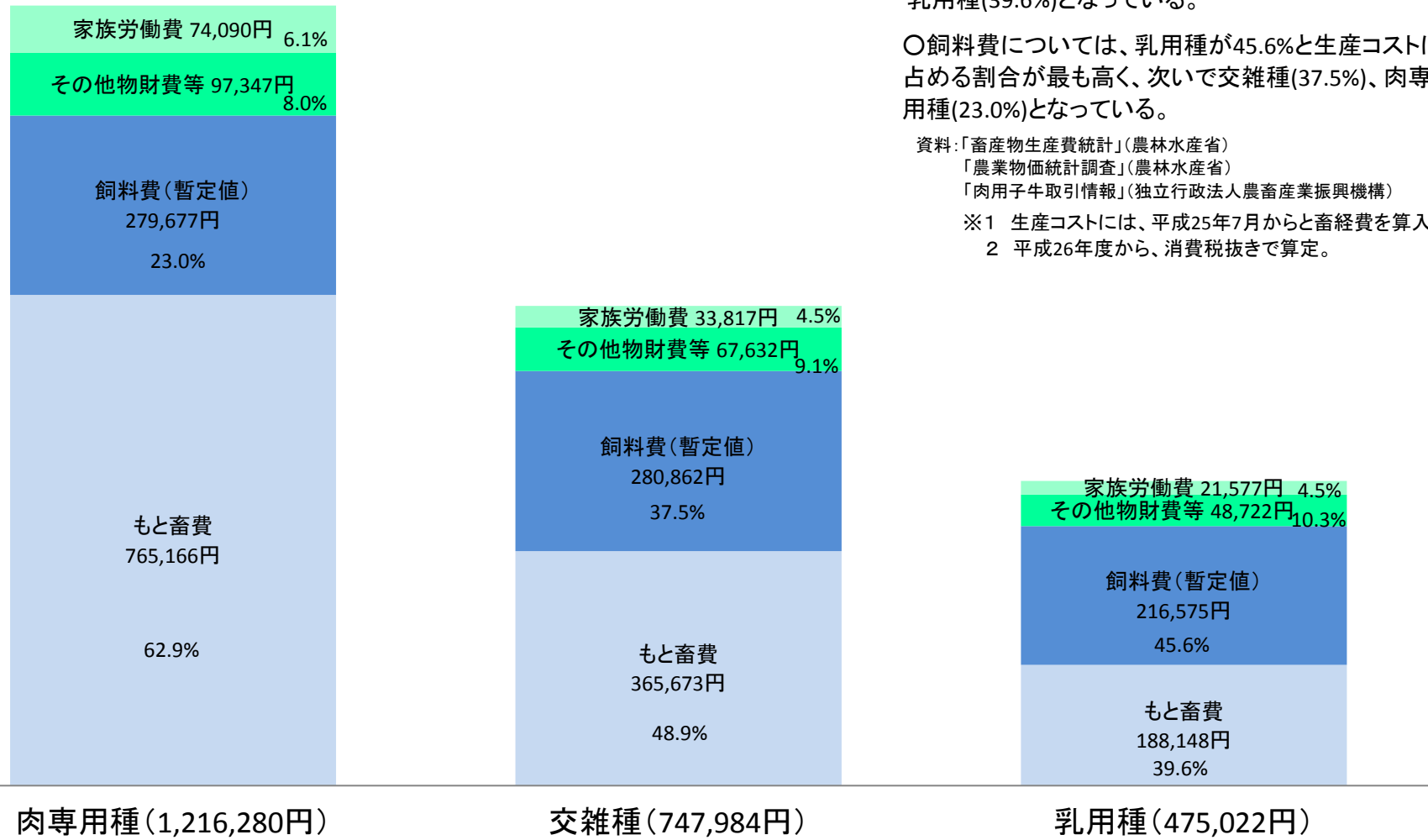


平成30年2月の1頭当たりの生産コスト(暫定値)



○もと畜費については、肉専用種が62.9%と生産コストに占める割合が最も高く、次いで交雑種(48.9%)、乳用種(39.6%)となっている。

○飼料費については、乳用種が45.6%と生産コストに占める割合が最も高く、次いで交雑種(37.5%)、肉専用種(23.0%)となっている。

資料:「畜産物生産費統計」(農林水産省)
 「農作物価統計調査」(農林水産省)
 「肉用子牛取引情報」(独立行政法人農畜産業振興機構)

※1 生産コストには、平成25年7月からと畜経費を算入。
 2 平成26年度から、消費税抜きで算定。